資源評価対象魚種の拡大に伴う予備調査

（資源評価調査）

寺門弘悦・寺戸稔貴・谷口祐介・金元保之・寺谷俊紀・岡本　満・森脇和也

１．目的

資源評価対象魚種の拡大に伴い、本県沿岸で漁獲される主要な水産資源の適切な保全と、合理的かつ持続的利用を図るための提言を行うため、科学的評価に必要な統計データや生物学的情報の収集を行う。

２．方法

2020（令和 2）年以降で日本海ブロックの資源評価対象に新たに加えられた 34 種のうち、2022（令和 4）年度は本県が資源評価に参画する 22 種（アンコウ、イトヨリダイ、キアンコウ、キジハタ、クロザコエビ、クロダイ、コブダイ、シイラ、チカメキントキ、チダイ、トゲザコエビ、ハツメ、ヒメジ、ヒレグロ、マゴチ、マハタ、マフグ、エゾボラモドキ、エッチュウバイ、クロアワビ、サザエおよびメガイアワビ）の新規拡大種について、島根県漁獲管理情報処理システムから出力した漁獲統計資料または産地市場の販売データから漁業種類別漁獲量の集計を行った。また、類似種との混在が考えられる魚種の水揚げ実態について、産地市場での実態調査を実施した。

３．結果

(1) 漁獲状況調査

上記 22 種の 2021（令和 3）年の漁獲量（属人）を図 1 に示した。キアンコウとアンコウは混在して水揚げされることがあるため「アンコウ類」として集計した。トゲザコエビとクロザコエビは、販売データ上では両種は区別されていないため「ザコエビ」として集計した。

(2) 産地市場での混在実態調査

上記 22 種のうち、アンコウ・キアンコウ、イトヨリダイ、クロダイ、チカメキントキ、ハツメ、ヒメジ、マゴチ、エゾボラモドキ、エッチュウバイおよびメガイアワビは類似種が混在して水揚げされている可能性がある。前年度の調査で、イトヨリダイにはソコイトヨリが混在して水揚げされる場合があることが確認された。2022 年度はチカメキントキについて、県西部の浜田市場における沖合底びき網漁業および一本釣り漁業の漁獲物を対象として類似種との混在実態を調べた。その結果、チカメキントキは類似種のキントキダイなどと区別して水揚げされていた。今後はチカメキントキが多く水揚げされる他地域の産地市場での混在実態を調べる必要がある。

４．成果

調査結果は（国研）水産研究・教育機構 水産資源研究所に送付した。他の参加機関の調査結果と合わせて、コブダイ、チカメキントキ、マフグ、エッチュウバイおよびサザエは「令和 4（2022）年度 資源評価調査報告書（新規拡大種）」として、その他の 17 種は「令和 4（2022）年度 資源評価調査状況報告書（新規拡大種）」として魚種別に取りまとめられて公表された※。

※公表 Web サイト：我が国周辺の水産資源の評価 https://abchan.fra.go.jp/hyouka/doc2022/

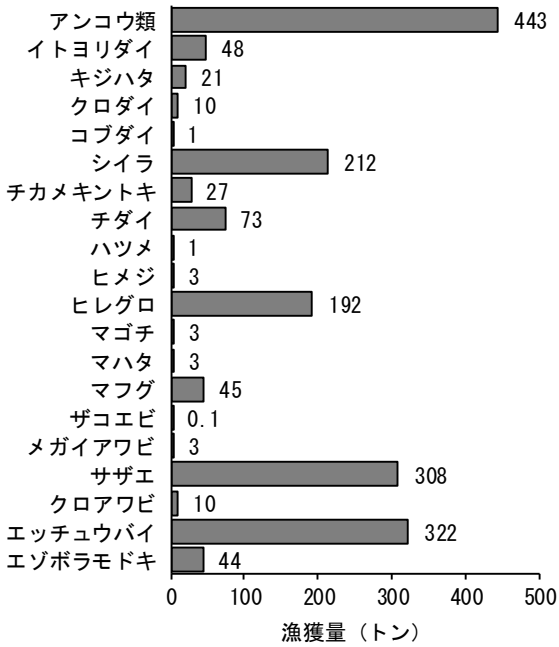

図 1　新規拡大種の 2021 年の漁獲量（属人）